

## 拝啓「私の可愛い二代目」様

「父ちゃんは、すべては愛情からはじまると思っている」

おまえが生まれて、父ちゃんはビックリしている。こんなにも自分の息子が可愛いとは思わなかった。おまえは、かけ値なしで、父ちゃんにとって世界中で一番大事な人だ。自分の命よりも大事な人だ。ママもこの気持ちだけは分かってくれると思う。そしてママも、この気持ちに依存はないと思う。

一日一日成長を見せ、一日一日違ったかわいさを見せてくれるおまえは、父ちゃんの心の大きなよりどころになっている。はつきり言って、父ちゃんは親バカだ。間違いなく親バカだ。でも今は、おまえに対して素直なこの気持ちを隠そうとは思わない。父ちゃんは、すべては愛情からはじまると思っている。そして今は、目いっぱいおまえにその愛情を注ぐときだと思っている。

おまえにはしつけない事がいっぱいある。そして、もっと大きくなってきたら、言っておきたい事や、教えておきたい事がいっぱいある。だけど、今はそれよりも愛情を注ぐときだと思う。そして、その愛情がおまえの心と体のすみずみまでにしみ込んだ頃、父ちゃんは本格的におまえをしつけないだそうと思う。そして言っておきたい

ことや、教えておきたい事を伝えていこうと思う。そういう順序がないと、同じ事を言ってもおまえの心へのしみ込み方が、父ちゃんとは全然違ってくると思ってる。

一真よ、すすすすく育ってくれ。そして、おまえの潜在能力を存分に発揮できる男になってくれ。そのためには、いくつになっても素直な心を失わないことだ。そして、自分のことだけでなく、相手の気持ちも分かる男にならなきゃだめだ。ウソをついちゃだめだ。人に迷惑をかけちゃだめだ。失敗したら素直にあやまる度量がないとだめだ。成功してもおごりたかぶっちゃだめだ。相手の失敗を必要以上に責めちゃだめだ。そして自分の失敗も必要以上に責めちゃだめだ。

一真よ、この世に完璧な人間なんてどこにもいない。自分に完璧を求めると、自分がつぶれていくぞ。謙虚に、素直に、大胆に人生を歩くんだ。大きな夢を持て。そして自分が何をやりたいか、しっかりと問え。そしてそれを、今度はしっかりと目標に  
してしまおうんだ。

一真よ、いい男になれ。何事にも体を張って立ち向かえ。決していいわけはするな。やればできる。おまえは父ちゃんの子だ、や

ればできる。限らない可能性を持っている。やればできる。

一真よ、父ちゃんはいつも仕事に行くとき、おまえと二人きりになって言っていることがあるな。最後にあらためてここで言わしてもらおうぞ。

「父ちゃんがいなときは、おまえが家を守るんだ。おまえは男の子だから、わかったな。ママの事もたのんだぞ、わかったな。〇

K・・・」

父ちゃんより

追伸

この手紙は長男が生まれて2、3歳頃に書いたものです。12年位前でしょうか。今でもここに書いてある私の考え方にはまったく変わりありません。そして長男の一真は完璧ではありません。んが温厚で思いやりのあるとてもいい子に育ちました。点数をつけるとしたら百点です。なぜならそれは、何度も言うようですが私は完璧なんかを求めているからです。そして、彼なりに一生懸命に頑張って生きているからです。結果なんかどうでもいいです。だから百点なんです。人から見れば親バカなんですし

